



# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL 50 平成 19 年 10 月



## 患者と共に歩み、患者と共に学ぶ 63 歳になって出来る医療

医療法人 真誠会  
社会福祉法人 真誠会  
理事長 小田 貢

私は、昭和 44 年に鳥取大学医学部を卒業して以来、医師として仕事をしてきました。約 40 年近くですから、そこそこベテランの部類の医師だと自分では思っております。

しかし、卒業して 10 年、20 年の若いときはもちろん、45 歳で開業した時も知識、技術優先の医療であり、高齢の患者さんの気持ちもわかりかねていました。また、高齢者はどのような治療やリハビリで、どのような経過を辿るといふ予測に対する、十分な知識もありませんでした。要するに、今思えば、急性期医療の延長の医療、若い人の医療の延長の医療をしていたと思います。

私、そして真誠会自体が、高齢者医療に踏み込んだのは平成 7 年老人保健施設ゆうとぴあを開設し、また平成 9 年に鳥取県で初めて診療所としての通所リハビリテーションを開始したことで、本格的な高齢者に対する医療を始めたのです。

その後は、私は患者さんとともに年を重ねました。

あれから 10 年、患者さんが精神的、肉体的に老化されたり、また力強く病から立ち直ったり、不自由な体にもめげずに黙々と努力を重ねられる姿を見ることにより、私は患者さんと共に歩み高齢者医療を学んできました。

もちろん開業して来年で 20 年になりますから、患者さんの中には今の私の年齢である 63、4 歳であった患者さんが、83、4 歳になっておられますから、現在の私のこれから 20 年先の生きる姿を見させていただいた感じでもあります。

そして、私が最近ますます強く感じるのは、医学的な治療、管理以上に大切なことは、個人のリハビリテーションに対する強い意欲と、それを支える精神力の大切さです。その精神力を引き出し、励まし、支え、共に歩こうとする気持ち、その患者さんに対する心からの愛情と、いとおしむ気持ち、それが現代の医療と癒合したのものとして患者さんに提供出来ること…これが 63 歳になった私に出来る医療だと感じています。

日野原重明先生が尊敬されるウィリアム・オスラー博士の教えに次のような言葉があります。

我々は患者と共に 学びをはじめ、  
患者と共に 学びをつづけ、  
患者と共に 学びをおえる。

Sir William Osler

ここで言う我々とは、医師のことです。そうです、私は患者さんと共に歩み、患者さんと共に学び、患者さんと共に人生を終えるのです。

私は患者さんと共に人生を歩んでいる一人の人間なのです。

## シンポジウム みんなで考える協働



コーディネーター小田理事長

医療法人・社会福祉法人真誠会が強く支援している「NPO 法人がいなネット」は、このたび平成 19 年度米子市まちづくり活動支援交付金を頂き、平成 19 年 9 月 30 日(日) 米子市文化ホール(メインホール)にて『シンポジウム みんなで考える協働』を開催しました。

パネリストは、米子市企画部協働推進課 主任 塚田武志さん、子育てをよくする会子育て支援ネット代表 松本寿栄子さん、米子市小中 PTA 連合会 副会長 山口一樹さん、男女共同参画推進会議米子 副会長 加藤洋子さん、米子市弓浜地域包括支援センター 主任介護支援専門員 安田博子さんでした。

このうち、松本さん、山口さん、安田さんは NPO 法人がいなネットのメンバーです。今回のシンポジウムは主に、子育てから、小中学校教育、男女共同参画、高齢社会など、「人」「生活」に関する協働

の取り組みに関する内容でした。

今回の協働シンポジウムにご来場いただいた方、あるいはこのシンポジウムがテレビ放映される時ご覧いただいた方に、米子市民の皆様は「協働」に対する理解が深まることと思います。そして、米子市が子育て、子どもの教育から高齢者に至るまで、魅力あるまちになることが期待されます。(来場者約 200 名)



パネリストの皆さん

## 第2回がいなフォーラム

### 老いも若きもHappyアンチエイジング



素敵な歌声に感動♪  
(ゴスペルオーブ&吉田章一先生)

平成 19 年 9 月 30 日(日) 米子市文化ホール(メインホール)にて『第 2 回がいなフォーラム』が開催されました。主催は NPO 法人がいなネットですが、今回のフォーラムの開催にあたって真誠会のボランティアスタッフ約 40 名が参加しました。

真誠会のスタッフは、大きな催しものの支援は馴れておりますので、テキパキと来場者を誘導して、前日の準備から後片付けまで完璧にこなしました。

フォーラムの前半は NPO 法人がいなネット副理事長で、高野歯科副院長 高野由美先生の「いつまでも若く、美しく」、後半は NPO 法人がいなネット理事長、医療法人真誠会 小田 貢理事長による「いつになっても、しなやかに優しく」の講演が行われました。

高野先生は主に、子どもから中年期にいたるアンチエイジング、歯科の観点からのアンチエイジングについてのお話でした。小田理事長の講演は、中年期以降から高齢者のアンチエイジング、心の健康、生き方などについて話をし、約 300 人の聴衆の皆さんは、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。



高野由美先生



フィナーレでは会場の皆さまと心を一つに、合唱をしました

物忘れ、認知症110番

介護相談110番

高齢者支援コールセンター

の開設

## オンリーワンのナンバーワンへの挑戦



平成 19 年 7 月 2 日、「高齢者支援コールセンター」開設式が行われました。

介護保険制度ができて 7 年経ちましたが、現在の米子市での高齢者事情は高齢者の方にベストな場所を探してあげたり、病院から施設への受け渡しが不十分な面もあります。それをスムーズな形で補うことができるよう、「真誠会医療福祉連携センター（通称：真誠会連携センター）」が本年 4 月に誕生しました。このたび新たに、「物忘れ、認知症 110 番」、「介護相談 110 番」の開設をする運びとなりました。何事も悩まずお気軽に相談していただき、早期発見の治療につながるよう、そして、適切な対応ができることを願っております。高齢者支援コールセンターとは、「真誠会医療福祉連携センター」、「物忘れ、認知症 110 番」「介護相談 110 番」の 3 つを合わせた名称です。

米子市全体に対する社会的サービスとして、どのくらい需要があるかわかりませんが、電話が集中するようならスタッフを増やして対応していききたいと思います。

現在でも、真誠会連携センターには一日平均 20 件くらいの電話がかかってきます。米子市の皆様に少しでもお役に立てるようにしていきたいと思っています。

自分の親が透析をうけていて、認知症も発症し、どうしたらいいかと相談を受けたことがあります。そういう面で、「真誠会医療福祉連携センター」、「物忘れ、認知症 110 番」、「介護相談 110 番」のコール相談が適切に対応してくれることと思います。

単に自分がやりたいことというスタッフ間の自己満足ではなく、人から感謝されることにならなければ本物とは言えません。米子市で誇りの高いものとして活躍していきたいと思っています。

「オンリーワンのナンバーワン」を目指して!!!

☆ 介護の相談や介護予防でお悩みの方…… **介護相談 110 番** **〔携帯〕 080-6329-4754** ヨナゴシ

☆ 物忘れや認知症でお悩みの方・ご利用者の対応にお困りの医療・福祉関係の方

…………… **物忘れ、認知症 110 番** **〔携帯〕 080-6327-4754** ヨナゴシ

○相談時間：午前9:00～午後9:00 経験のある担当者が携帯電話で365日対応いたします！ ご相談にあたっては、プライバシー、個人情報は厳守いたします！

## 第1回地域連携室意見交換会 開催

8月10日（金）に、国際ファミリープラザにて「第1回連携室意見交換会」が開催されました。

この連携室意見交換会は、真誠会連携センターが呼びかけて、米子医療センター、博愛病院、山陰労災病院の連携室と共に世話人をさせていただいて開催されたものです。

鳥取県西部地区の 12 医療関係施設からの出席があり、鳥取大学医学部附属病院豊島病院長、鳥取大学医療福祉支援センター長池口教授、山陰労災病院石部病院長、米子市長寿社会課高野課長補佐などの出席もあり、積極的な意見交換が行われました。

その後の二次会にも約 20 名の参加があり、お互いに「顔が見える連携室」の実現に向けて、一歩前に動き出したことを実感した一時でした。

後日、出席していただいた施設に対して、アンケートを行いました。意見交換会の時の生の声も入れると、「1) 意見交換会はあったほうが良い」

「2) あまり回数が多いと負担なので一年間に 2 回か 3 回の開催を希望」という意見をいただき、今後の開催も期待されていることがわかりました。

今後も、真誠会連携センターがこのような会のお世話役になることで、企業や医療福祉に対する社会貢献となるよう積極的に関わっていききたいと思います。



貴重な意見交換が行われました



## 真誠会開設19周年 ……そして、20周年に向けて

医療法人真誠会理事長 小田 貢

真誠会は、平成 19 年 9 月 9 日に開設 19 周年を迎えました。

ちょうど昨年の 6 月から 8 月にかけて童謡の里、ふくろうの里、ふる里を開設しました。

そして、それを一年間で軌道に乗せることができました。

平成 19 年を迎えるとすぐに、「ワールドプロジェクト」を立ち上げ、新年早々から新型特別養護老人ホームの建設計画を立ち上げました。指導陣としては森本看護介護統括部長を中心に、奥田師長、村上師長、小徳師長、絹川師長、井澤師長、矢倉師長、佐平師長、岡田師長など新しい強力な体制が確立しつつあります。

またグループホーム青松庵や、小規模多機能センターふる里では、第三者評価などで非常に高い評価を受けて、次第に真誠会の質の高さが社会的にも認められるようになりました。

このように、真誠会は一年間で激しい変化を遂げております。

10 年前は医療福祉の制度も社会も、10 年単位で動いておりましたから、医療福祉施設もゆっくりとした動きで変化に対応出来ておりました。しかし、現在では社会も医療福祉の制度も半年単位で、そして時には数ヶ月で変化しております。

そのような時代に取り残されず、さらに「オンリーワンのナンバーワン」の医療福祉施設であろうとするなら、私たちも数ヶ月単位で変化をしながら、同時に速いスピードで前に進まなければなりません。

例え話としては、10 年、20 年前には国道 9 号線をのんびり車が走っていたのが、現在では曲がりくねったサーキットを、レーシングカーで高速で走るようなものです。たとえ曲がりくねった道でも、その道に対応しながらスピードを落とさずに進むためには、細心の注意とそのスピードで正確に運転できる技術の革新を維持しなくてはなりません。

そして同時に、その速い社会の中にいる職員個人個人もプロの自覚をもって前向きに、機敏に、力強く、生きて行かなければいけません。真誠会はそのような職員を、今後も応援し、支援し続けたいと思います。

合言葉は、真誠会としても、そしてスタッフ一人一人も「オンリーワンのナンバーワン」です。

来年、平成 20 年は真誠会開設 20 周年です。その 20 周年にふさわしく、米子ホスピタウンに新型特別養護老人ホームの建設、小規模多機能センターにもサテライト型特別養護老人ホームが建設される予定です。

また来年の 9 月には、聖路加国際病院理事長日野原重明先生をお招きし、記念式典、記念講演を予定しております。

これから一年、20 周年に向かって力強く歩んで行きたいと思います。



河崎・大崎・富益の施設  
TV 三元中継で式典が行われました



## 真誠会開院19周年記念 森本部長より祝辞

看護・介護統括部長  
真誠会セントラルクリニック副院長  
森本靖子

ホスピタウン創業 19 周年、まことにおめでとうございます。

人の発達段階における 19 歳は、青春期も最後の年ということになります。来年の 20 歳の成人を迎える年を目前にして、今、私たちは、改めて真誠会の過去の歴史を振り返り、小田理事長から教え導かれたことを胸に刻み、未来へ、銀河鉄道 999 ならぬ宇宙という大空間に飛翔していくエネルギーを蓄えていく年だと気持ちも新たにしております。



森本看護介護統括部長

振り返りますと、昭和 63 年、ベートーベンの運命第一楽章の如きインパクトで始まったホスピタウン、数年後はモーツワルトのような流れるような曲が奏でられるオーケストラに成長、その音色は米子から山陰へ高らかに響くようになりました。

そして幾度となく繰り返される真誠会の絶景のある季節を眺め、いろんな風を感じながら、今、内外において名実ともに、ナンバーワン・オンリーワンの医療福祉社会を牽引するホスピタウンシンフォニーが演奏されていると実感しています。

現在、日々のシンフォネットワーク、理事長訓示などから、理事長のホスピタウンへの熱い想い、がひしひしと伝わってくると同時に、多くの示唆を得ています。19 年間の教えに一貫として感動を覚えるのは、真実を求め、まじめで誠実である、といういわば心の哲学と社会的に中立的に誰からも受け入れられるとの想いをこめられた真誠会、その理念が具現化され大樹の根幹を成し、普遍的であるということです。そして又、理事長の病む人々、高齢者の方々、多くの社会の人々に愛と幸を提供するために、そして職員が豊かな人生を創作するために、グローバルな視点から情熱的に全人的人材育成を成されておられます。このことは、全国屈指であると確信するとともに、このような組織の一員であることに誇りを感じます。

今後も真誠会グループは、社会のために健全に存在し、発展していかなければならない使命がある、との方針を受け、私たちは、自己実現の舞台である真誠会において、夢を求めて歩み、オンリーワンの人間性を育みます。そしてプロフェッショナルで豊かな知識・技術を磨き、職員一人一人が主体的なプロデューサーとして英知と勇気を出し合い、結束し、責任のもてる 20 歳を迎えたいと決意しております。

よろしくお導きくださいますようお願いいたします。

19 周年おめでとうございます。

# 辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## いかいやソウル 2007

いかいやソウル 2007 年版です。ソウルにも何回も行ってるといい加減飽きてくるかと思われるかもしれませんが、それが何が何が全然飽きが来ません。行く度に新しい出会いがあります。街をブラーッと歩いてハングルで書かれたポスターや看板をポーッと見てるだけでも飽きません。

何回も行ってるとソウルの地理も覚えてしまいます。移動は大体地下鉄を使いますから、ソウル中心部の駅は覚えてしまいましたし、ソウルの一番の繁華街の明洞は路地裏まで分かるようになりました。でもこの明洞ですが繁華街と言っても東京のように垢抜けしていません。どこか泥臭くてこれがまたいいのです。初めて連れて行ったボクの娘が言ってましたが、「ソウルは都会だけどなんか田舎っぽい。昭和の東京に大阪人が住んでいる街だ」なるほど、そうかも。ただし田舎っぽいだけならいいですが、表通りでも所かまわず、ゴミが捨ててあったのにはいただけません。何回も行ってると今まで見えなかったのが見えてきます。



明洞の屋台にて

ソウルの真ん中に南山という山があります。歩いて昇れば 30 分もかかりませんし、山をぐるっと一回りするジョギングに丁度いいコースもあります。ここを朝散歩するとたくさんのソウル市民が散歩したりジョギングしたりしてるのに出会います。また山の頂上に上るとここにもたくさんの人が、しかも年配の方が大勢います。若者は全くといっていいほどいません。若けえもんは何してるんだろうと思っていたら、ある時朝早く鐘路という繁華街というか飲み屋街を散歩していたところ、店からたくさんの若えもんが出てくるのを目撃しました。それを見て早朝からジョギングで汗を流す年配の方と、夜中ずっと呑み明かして朝帰りする若えもんとのあまりのギャップに驚きました。大丈夫かな。韓国の将来は。

ソウルでの移動はほとんど地下鉄を使うと言いましたが、日本もそうですが、ソウルでは地下鉄の駅が一つ違っただけで、街の雰囲気や行きかう人々がガラッと違ってきます。明洞は高校生などたくさんの若者で溢れていますが、その隣の会賢（フェーフォンといいます）には市場があり、おじさん、おばさんが増え、また次の駅はソウル駅になりここではビジネスマンを多く見かけます。今回はまた、薬の間屋街がある祭基洞という処に行ってみました。そこでは、駅に着いたとたんなんや薬の匂いがぶーんとして来ました。その間屋街では冬虫夏草をゲットしました。ただし、その値段が日本円で 300 円しかなかったため、とても本物とは思えず今もそのまま放ったままです。



祭基洞の薬問屋にて



料理教室のアガシと

今回もいろんな韓国人と話をしましたが、観光地のガイドやホテルのフロントはもとより、タクシーのおじさんから屋台のおばちゃんに至るまで日本語が達者なのは毎回感心します。タクシーのおじさんなどは独学で日本語を勉強していて、空港から向かう途中ずっとボクは日本語の講師をさせられました。こうして日本人を乗せるといつも生きた日本語を習ってるそうです。商売に必要とは言えいやはや韓国人のたくましさには呆れます。そう言えば道を歩いていたら韓国人から道を聞かれたことがあり、それにまた韓国語で教えてあげました。旅行に来た日本人が地元の韓国人に道を教えるってのも面白いですね。

というわけで、今回もいろんなことがありました。来年もまた行きます。

# いえはら歯科



いえはら歯科  
院長 家原 猛

## 「〇〇のSさんは、メロンを持ってオクラホマでしなあ。」?

平成の元年頃からだろうか、歯科の訪問診療という行為が保険診療で認められた。「来て診てほしい」という要請があれば、とりあえず出掛けてみて、「どうしてあげるのが良いだろうか」「何がしてあげられるだろうか」と、私なりにできるだけ対応してきた。平成 12 年介護保険が施行され、歯科では居宅療養管理指導という項目で、在宅の方々の定期管理という形で生活支援を行うこととなった。歯科衛生士も口腔ケアという形で在宅の方々とかかわる機会も増加した。(話が少し堅いようですが……)

A さんにかかわるようになったのは平成 16 年の夏から。その年の 4 月に脳幹梗塞を発病。四肢マヒ、嚥下機能低下で胃ろう、構音障害あり。要介護 5 の状態でした。

お家に帰られた 7 月から歯科衛生士にも協力を得て口腔ケアを 1 回 / 週でお願いしました。アイスマッサージや発音訓練も継続しました。元来、A さんは口呼吸であったため、口腔乾燥が起こり易い状態でした。朝起きると口蓋に乾燥した分泌物(痰や唾液)がこびり付いていて、今でも午前中はしゃべりにくいのだそうです。発音練習の成果は顕著でした。お話好きだし、特にご家族のことについてよく話していただきました。そんな中から、舌の奥の筋収縮不良からと考えられる「力行」の発音が難しいこともわかってきました。そして、この頃はデイサービスでも口腔ケアやお顔のマッサージなどもしていただけるのだそうです。

そんな話をしている時です。A さんが「〇〇のSさんはメロンを持ってオクラホマでしなあ。」「メロン?……」「めろん?・・」?・・?・・これまで築いてきた A さんとの発音練習の輝かし実績と友好的な人間関係の危機を感じた時でした。(少々、オーバーか)

ええと……めろん、めろ、べろ、・・「べろ」!「〇〇のSさんは、べろを持って・・

オクラホマ?・・オクラ・・ホー・ま・で、しなあ。」・・わかった!「〇〇のSさんは、べろを持って、奥の方まで(口腔ケアを)しなあ。」と、ということです。

言葉もしっかりイメージできるが、構音障害のある患者さんでは、その前後の会話の状況や居られる周囲の状況との関連を認識した上で、言葉を理解するようにしないとなかなか会話に成り難いことがわかりました。聞き慣れた話なら心配ないのですが、初めて聞く内容の話のときは、こんなことが起こり易いようです。でも、初めての話の方がお互いに興味と刺激があつて良いと思うのです。

また、今日も楽しい話に出会える機会を求めて、東奔西走する毎日です。

いやいや、A さん、頭も白いが、お(尾)・も・し・ろ・いお話でした。



# 中 下 医 院



## 生物的時間 高齢になると1年を短く感じるわけ

中下医院  
院長 中下 英之助

外来診療に際して、高齢の患者さんから『年をとると1年が短くなりました』との話をよく耳にします。私も昨年で60歳の還暦を迎えました。今日までの生活の記憶をたどってみても、学童期から高校、大学を経て新入医局員時代と比べ最近記憶に残る思い出も少なくなり、年齢をかさねるに従い、時間の経過が早くなるように感じます。

わが国における時間の観念は、大昔には、時間意識は昼と夜との反復でした。暦の時間を区切る単位は、日、週、月、年がおもなものです。このうちヒは太陽の、ツキは月の動きを示しており、トシは稲の実りをあらわし、年に一度あることよりトシと呼ばれました。元来多神教的風土で、万物に神が宿り、四季のある自然と人間が一体となり、回って繰り返すという時間観（円還時間）の中で生きてきました。

時間を計る尺度として、キリスト教では神によりこの世が創世されてから、終末期まで一直線に流れていく直線的時間があり、西暦、イスラム暦などの一神教で見られます。回る時間として年号が、中国を発祥として漢字文化圏に広まりました。中国では皇帝の在位期間を表しており、わが国でも取り入れて独自の元号が使用されました。明治以降は天皇の一世一元の制に改められ、大正、昭和、平成と続いています。実際に使用されると、国際間の仕事、年齢や将来計画などには西暦が便利ですが、日常生活では、祖父母は明治、両親は大正、本人は昭和、孫は平成などと元号を聞けば、家族間における世代構成が直ちに連想されます。明治時代以降の近代化とともに時間の観念も変わりましたが、年号や還暦など日常生活に溶け込んで、使用されています。西欧よりもたらされた、同じ速度で直線的に流れる時間を『物理的時間』とするなら、元号や人の生殖行動のように回って繰り返す時間は『生物的時間』といえます。

生物学者の本川達雄は、新しい時間の見方として、エネルギー消費量と時間の早さが比例するという代謝時間を考えています。この考えに立てば、体重あたりのエネルギー消費量は、子供では高く、高齢になるほど減っていくので、子供の時間は早く進み、大人の時間は遅くなり、老人の時間はもっとゆっくりとなります。そのために子供の頃は一日が長く、大人になるに従い一日が早く過ぎ去るように感じます。

学校の授業時間をとってみても、小学生の45分から大学では90分となり、成人の講演会では2時間と年齢により時間が伸びています。会合でのスピーチ時間では、若年者では早口で短く、高齢になるに従い間延びして長くなるのは日頃しばしば経験するところですが、これは年齢にみられる生物的時間の表れかも知れません。

教育制度の見直し議論が進行して、ゆとり教育の弊害が槍玉に上がっています。生物的時間よりみると、学童期には時間が濃縮して充実しており、読み書き計算の基礎学力習得のいる時期に、ゆとりという名の空虚な時間を過ごさせ、他方で老人の脳活性化として、計算・漢字ドリル学習の試みがあります。学童期の詰め込み学習は、社会生活のために必要であり、老人にとっては昔話に花が咲くように、過去に歩んだ人生の全盛期の楽しい時期に回帰するようなゆとりの時間が求められます。これらは生物学的素養のない人が、立案した試みといえましょう。理科教育などの基礎教科教育の充実が必要な理由です。

私は旧名和町で生まれ、幼児期を過ごしました。当時田舎では子供が庭先を遊んで駆け回り、老人が縁側で見守りながら佇んでいるのが、日常で見受けられる光景でした。子供の時間大人の時間が凝集しているように思えます。



## 祝 アネックス10周年

### 真誠会デイケア 10周年を迎えて

真誠会デイケアは、平成9年7月7日7時7分7秒にスタートをしました。関係者はその時間の前に、真誠会デイケアのドームに集まり時報と同時にクラッカーを鳴らして開所を祝いました。

このデイケアは、米子の診療所では最初に開所したデイケアです。いわばデイケアの「発生の地」です。それからは、医療も受けることができるデイケアとして人気を集めました。

その後、平成12年4月年には弓浜デイケアができ、平成12年8月には富益しあわせデイサービスが開所されたため、それぞれに利用者が移動し、一時的に真誠会デイケアの利用者の数は減りました。しかしながら、過去にも現在にも真誠会デイケアは真誠会グループのデイケアの中心的存在であります。

デイケアの内容も、開所当時よりずいぶん変わってきました。最初はレクリエーションが中心でしたが、介護保険の導入以来、次第に内容のレベルアップが図られ、平成17年真誠会で筋力トレーニングを取り入れてから、利用者の皆さんの意識も変わり、どなたも熱心にリハビリに取り組まれるようになりました。状態がずいぶん改善された方もいらっしゃいますし、高齢に伴う体力の低下も遅くなったように思います。その後、真誠会は認知症に対するケアも他の医療福祉グループと比較して、抜き出たケアを行っております。

真誠会デイケアは、今後とも全国的にトップクラスのサービスが提供し続けられるよう、努力をしていきたいと思っております。そして、単に真誠会が主体ではなく、ご家族の皆様方と一緒に作り上げて行くことがこれからの夢です。



### オアシス10周年 を迎えて

平成9年7月7日に、真誠会医院（現・真誠会セントラルクリニック）では、透析機器6台で、透析施設オアシスがスタートしました。

当時としても、これからの高齢化社会において、総合的な施設展開をしている真誠会グループにとって、透析は必要不可欠なものと感じたからでした。

開設当初は、現在開業しておられる、うえますクリニックの上根先生に、定期的に来ていただき透析を開始しました。また、今では珍しくない透析患者さんの送迎も行い、透析に通えない高齢者の皆様に対しても便宜を図るようにしました。

オアシス開所時の患者さんは合計3名で、開所1ヵ月後に7名になりました。その中で、現在、開設当時から患者さんの2名が、真誠会で10年目になる透析を継続しておられます。そして、平成19年7月の時点では、透析機器16台、透析を受けている患者さんの数は52名になりました。

真誠会で透析を受けておられる患者さんの平均年齢は75.3歳で、多分鳥取県の透析施設でも一番平均年齢が高いと思います。それは言い換えれば、たくさんの病気、あるいは高齢化によるリスク（危険性）の高い患者さんが多いということの意味しております。

しかし、過去10年間、透析中にお亡くなりになった方はいらっしゃいません。透析中に急変して心肺停止した患者さんはありますが、全ての患者さんを救命できたことは、真誠会の医療レベルの高さを示していると思います。

これからの時代には、高齢者の透析患者さんの増加、また今まで透析を行っていた患者さんの高齢化によって、透析を受けるのに通院できなくなる人が急激に増加します。それを考えると、真誠会は施設を持っているので、透析を行っている数少ない医療福祉複合体として米子はおろか鳥取県西部において、今後ますます社会から期待されることが大きくなることと思います。私たち真誠会グループは、できるだけその期待に答えていきたいと思っております。





# 真誠会デイケア ゆうとぴあデイケア

## 合同運動会 (米子ホスピタウン)



記念にシャッター  
「カシャッ☆」



みんな玉入れに  
夢中♪



ご夫婦仲良し  
ですね♥



がんばれ~!  
がんばれ~!!

9月29日(土)、真誠会デイケアとゆうとぴあデイケア合同の運動会を開催しました。玉入れや借り物競争、水入れ競争、リレー……「さあ!次は私の出番だ!!」と皆さん大張り切りで汗を流しました。体を動かすって、いいですね♪

## 音楽が心と体を癒す ~心の風邪をひいていませんか?~

音楽には、「癒し」の効果があるとされていますが、その「癒し」とは一体なんなのでしょう?  
"脳の動きや内臓の機能から、心の状態まで、私たちが穏やかな状態に導くこと、心理的な安心感を与えること"——これを「癒し」と言います。人間の自律神経には交感神経と副交感神経の2つがあり、交互に活動して体のリズムを作っています。この自律神経のバランスがくずれ、交感神経が過剰に動くと、血管が収縮し血圧が上がったり、睡眠障害が起こりやすくなったりと、いろいろな障害が出てきます。

一方、副交感神経が活発になると、アセチルコリンや脳内でセロトニンといったホルモンが分泌され、血管が拡張したり、免疫力が高まったりします。

◆音楽にはこんな症状に予防・効果があります♪♪♪♪

- 1 心身症の改善
- 2 緩和医療への利用
- 3 血圧や心拍の安定
- 4 認知症やアルツハイマー型認知症



以上の症状の方にはとても効果的です。特に、認知症の方への音楽療法は、記憶力の低下をおさえたり、ぼけ症状の改善をはかろうとする医療施設での試みがなされています。

皆さまもたまにはゆっくりと音楽を聴いて、心を癒してみませんか?

# 米子ホスピタウン



ホーラ、ヨイヨイ♪

## 夏祭り 9月1日(土)



河崎の岡田様による踊り「次郎長 富士」



夏祭りのはじまり、はじまり(〇〇)!

例年通り、9月1日(土)に米子ホスピタウンにて夏祭りが開催されました。職員手製のお神輿が理事長の合図で登場!! たこやきやかき氷、アイスクリームなどの出店もあり、利用者の皆さまもここにこ顔(^-^)  
河崎の岡田様による踊り「次郎長 富士」や真誠会職員によるよさこい節など、みんなで一緒に踊り盛り上がりました♪



おみこし行くぞ~!

# 弓浜ホスピタウン

## 地域交流 夏祭り 8月25日(土)

8月25日に、第8回弓浜ホスピタウン地域交流夏祭りが盛大に行われました。2000年ホールではかわいい小学生や、地域の方々が踊りや歌を披露して下さいました。ご来場いただいた地域の皆さま、利用者の皆さまも笑顔で一緒に歌ったり、踊ったりと楽しい一時でした!



崎津子供会 銭太鼓同好会の皆さんによる傘踊り



おみこしの出発!!



おいしいよ~ \*^o^\*



みんな踊りが上手だなあ~

## 世界の子供の平和を祈って ユニセフへの寄付

日野原重明先生（聖路加国際病院理事  
理事長、医療法人真誠会名誉理事  
長）は、平成 19 年 4 月 9 日「日本  
ユニセフ協会大使」にご就任されま  
した。

日野原先生は以前より、世界の子  
どもの平和と幸せを願っておられましたので、日本ユニセフ協会大使へのご就任は、日野原先生にとっても願ってもないことだったと思います。実は日野原先生は、今回の日本ユニセフ協会大使にご就任される前から世界各国の子どもたちに命の大切さ、平和の大切さを教えておられました。

医療法人・社会福祉法人真誠会では日野原先生の日本ユニセフ協会大使ご就任時より、これを記念して、ユニセフに寄付をすることを計画していました。

そして、平成 19 年 9 月 12 日、真誠会小田貢理事長が、聖路加国際病院理事長室に日野原先生をお尋ねし、寄付金を直接お渡すことが出来ました。

医療法人・社会福祉法人真誠会としては、今後も引き続きユニセフに対して出来る限りの支援をしていきたいと思ひます。

